

八雲町育成牧場運営協議会 会議録

■日時 令和7年1月20日（月） 13:30～14:00

■場所 八雲町役場3階議員控室

■出席

運営委員：舟田進一、佐藤正之、都築岳志、都築享子、小野泰、前川眞由美
渡島農業改良普及センター渡島北部支所：佐藤係長

JA新函館八雲支店北部酪農畜産センター：上村センター長

北海道NOSAIみなみ統括センター道南支所道南東部家畜診療所：澤村所長

株式会社青年舎（指定管理者）：的野牧場長、長谷川

八雲町：岩村町長、石坂課長、上野課長補佐、高嶋係長、角屋

■顛末

1. 挨拶（八雲町長 岩村 克詔）

今年度の育成牧場の運営について、運営委員の皆様のご協力もあり無事終了することができ、感謝申し上げます。いまだ酪農情勢は大変厳しい状況にあるが、良い方向に進むよう国へ働きかけるとともに、町としてもしっかりと支援を続けていきたい。

2. 報告事項

（1）令和6年度運営状況について

①収支決算見込み（指定管理者説明）

委員より異議なし

②使用料内訳（指定管理者説明）

委員より異議なし

③入牧状況（指定管理者説明）

委員より異議なし

④委託牛増体量調べ（指定管理者説明）

委員より異議なし

⑤委託牛疾病発生状況、事故発生状況（指定管理者説明）

委員）今年度は昨年度に比べると暑い時期が短かったように思えるが、熱

中症の事故が発生しているのはなぜか。

管理者) ピロプラズマ症の牛が貧血等で衰弱し、熱中症による事故につながったと考えられる。

委員) 今年度ピロプラズマ症の発生頭数は多くなっているが、早期発見により事故は少なくなっている。しかし、暑さにより症状の進行は速くなるため、貧血等で衰弱し、熱中症により事故が発生した可能性は十分に考えられる。

委員) 蹄病による治療が多いが原因は。

管理者) 小石や、笹を踏んで傷ができ、化膿しているケースが多かった。

委員) 広い牧野に少ない入牧頭数だと、放牧草が伸び、硬くなった放牧草が蹄にふれることで、損傷を受けて趾間腐爛を発症することが多い。

3. その他

委員) 北里大学は学校法人であるため農業共済組合の組合員にはなれず、個体診療を行うには獣医学部所属の獣医師に対し写真の送付が必要となり、即座に対応できない状況であることから、育成牧場の従業員が治療等を行うことは可能か。

委員) 農業共済組合から育成牧場へ治療薬の販売はできないが、非組合員でも共済組合の獣医師が診療、治療に対応できるため、緊急性の高い症状のときは獣医師を活用していただきたい。